



らくちゅうらくがいずがきぶら
 綴プロジェクト作品 洛中洛外図屏風(上杉本)
 狩野永徳筆 寄贈先: 米沢市 原本所蔵: 米沢市上杉博物館

今も煌びやかな、京の都。

狩野永徳の代表作であり、数ある洛中洛外図の中でも特に名作と言われる。右隻には、下京の町並みを中心として、御所、清水寺、祇園神社。左隻には、公方邸や細川邸を大きく配した上京の景観。京都の市中(洛中)と郊外(洛外)の様々な人びと、町、自然を生き活きと捉えながら、お正月の風景、春の桜、夏の祇園祭、紅葉狩といった、今も息づく四季折々の行事が華やかに展開している。

永徳の「洛中洛外図屏風」は、天下統一を狙う織田信長が上杉謙信に寄贈した屏風で、歴史的な価値も高い作品。上杉家は、謙信ゆかりの遺品として、大切に守ってきました。綴プロジェクトは、その原本を高精細複製品に置き換えることで、より良い状態での保存を実現。一般公開を可能にしました。京都の町並みや風情が、今日まで守られてきたように、「洛中洛外図屏風」も受け継がれていくことでしょう。

日本の美を、人へ、未来へ、伝えていく。

「綴プロジェクト」は、貴重な日本の文化財を高精細複製品として制作し、オリジナルの文化財の保存と複製品の公開を目的とする社会貢献活動です。

海外に渡った文化財を高精細複製品として、日本に「里帰り」させているほか、綴プロジェクトで制作した作品35作品は、寄贈先の美術館や寺院などでの一般公開や、歴史教育の現場で生きた教材として、日本の優れた文化や芸術に、より身近に接する機会を提供しています。



詳細は、公式サイト
global.canon/ja/tsuzuri

公開情報

三月二十四日(土)、三月二十五日(日)
 綴プロジェクト作品・洛中洛外図屏風が
 米沢市上杉博物館にて公開されます。

